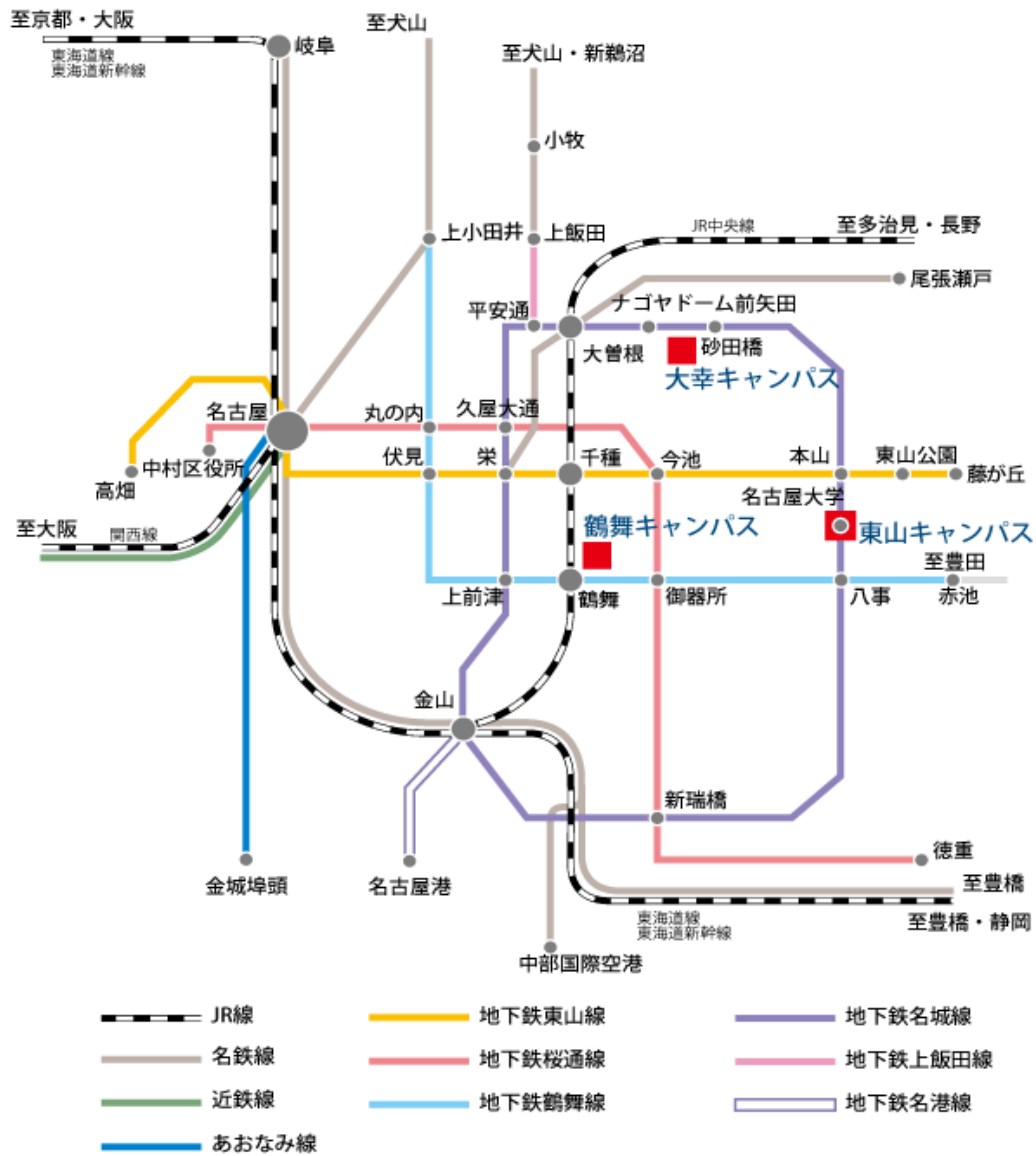


アメリカ教育学会
第 26 回大会プログラム
Japan Association of American
Educational Studies

2014 年 10 月 25 日(土)
会場 名古屋大学 東山キャンパス
教育発達科学研究科・教育学部

会場への交通案内 (名古屋大学 東山キャンパス)



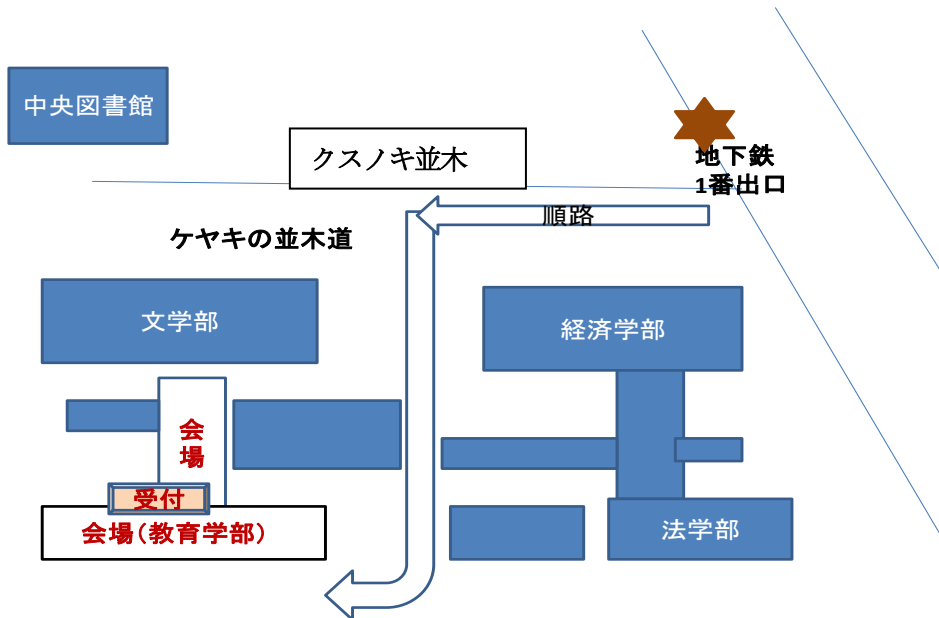
名古屋駅より地下鉄（東山線にて「本山」乗り換え、名城線「名古屋大学」下車）が便利です。地下鉄駅「名古屋大学」①番出口より右手へ徒歩2分程度。

会場への道順は、詳細は、同封のキャンパスマップをご参照ください。

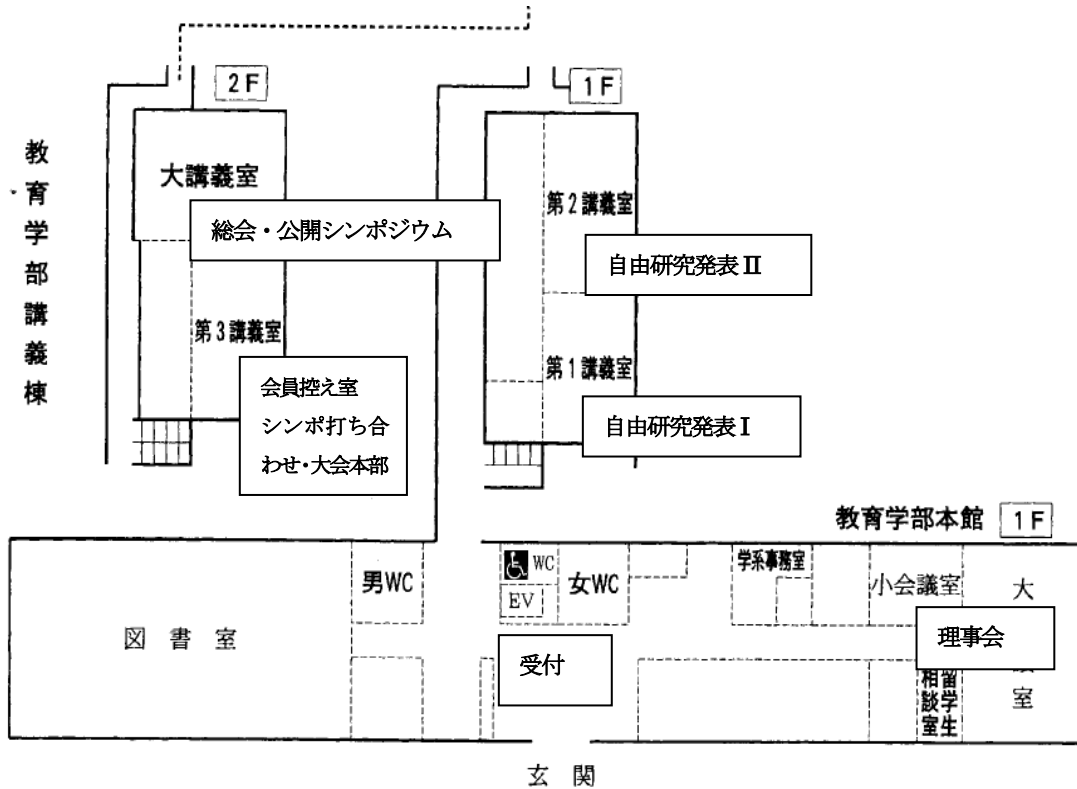
大会会場案内図



名古屋大学東山キャンパス



大会会場建物案内図



- | | |
|---------------------|---------------|
| 大会受付 | 1階 玄関内～テラス |
| 総会・公開シンポジウム (大講義室) | 2階に上がって右手奥 |
| 自由研究発表I (第1講義室) | 1階 ドアをに入って右手 |
| 自由研究発表II (第2講義室) | 1階 ドアをに入って右手奥 |
| 会員控え室 (第3講義室) | 2階に上がって右手 |
| 大会本部 (第3講義室) | |
| シンポジウム打ち合わせ (第3講義室) | |
| 理事会 (小会議室) | 1階右手奥、北側 |

大会日程・大会参加要領

時間	備考
9:30～	大会受付（教育学部 玄関内）
10:00～12:05	自由研究発表Ⅰ（第1講義室）
10:00～12:15	自由研究発表Ⅱ（第2講義室）
12:15～13:15	昼食休憩（シンポジウム関係者打ち合わせ 小会議室）
13:20～14:20	総会（大講義室）
14:20～17:00	公開シンポジウム（大講義室）
17:30～19:30	情報交換会（懇親会 シェ・ジローin ES 総合館1階）

1 受付

10月25日（土）9:30より教育学部本館の玄関内で行います。

午後は、大講義室前で行います。

2 学会費

会員で会費未納の方は、年会費（正会員5,000円、学生会員4,000円）を納めてください。大会当日も納入加納です。また当日、新入会をご希望の方は、入会金1,000円を添えてお申し込みください。

3 大会参加費（『発表要旨録集』代を含む）

3,000円（一律）

4 情報交換会（懇親会）会費

4,000円（一律）

会員相互の親睦を深めるため、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

事前にメールにてお申し込み頂いた方のみご参加いただけます。

5 事前メール受付のお願い

大会及び情報交換会の申し込み・参加の出欠について、下記の要領に従って、Eメールにてお知らせください。

自由研究発表・公開シンポジウムへのオーディエンスとしてのご参加は、当日申し込みでも受け付けますが、情報交換会（懇親会）へのご参加は、事前申し込みのみ参加可とさせていただきます。

申し込み送信〆切り：2014年10月10日（金）

送信先アドレス：n47132a@cc.nagoya-u.ac.jp（松下研究室）

Phone & FAX 052-789-2616（松下研究室）

メール件名 大会出欠

メール本文 1行目 お名前

2行目 大会出席 または 大会欠席

3行目 情報交換会出席 または 情報交換会欠席

6 昼食

お弁当の販売はいたしませんので、以下の食堂・売店などをご利用ください。

南部食堂（キャンパス案内図のB5③）

ファミリー・マート（キャンパス案内図のB4②、C3①）

スターバックス（中央図書館玄関内 キャンパス案内図のB3②）

北部厚生会館内食堂（キャンパス案内図 B2⑧）ほか

7 理事会

前日の10月24日（金）16:30～18:30 教育学部本館1階小会議室（玄関に入って右手奥、北側の部屋）にて開催します。

自由研究発表

自由研究発表 I 10月25日(土) 10:00~12:05 教育学部 第1講義室

【司会】安藤輝次(関西大学) 松村暢隆(関西大学)

・10:00~10:25

現代アメリカの発砲事件—キャンパス・シューティングを例として—

鶴浦 裕(文京学院大学)

・10:25~10:50

アジア系アメリカ人の教育言説:『タイガー・マザー』から考える

井口 博充(大東文化大学・非常勤)

・10:50~11:15

米国チャータースクールによる公教育体制の再構築に関する研究(Ⅲ)

湯藤 定宗(玉川大学)

・11:15~11:40

ハイスクールにおける国際バカロレアの導入をめぐる動向

矢野 裕俊(武庫川女子大学)

・11:40~12:05

全体討議など

自由研究発表 II 10月25日(土) 10:00~12:15 教育学部 第2講義室

【司会】赤星晋作(広島市立大学) 松尾知明(国立教育政策研究所)

・10:00~10:25

NCLB 法による教育活動への影響に関する一考察—ユタ州ワシントン郡の小学校を事例に—

田中 美保(九州大学大学院)

・10:25~10:50

教員に求められる資質能力の変容

佐々木 司(山口大学)

・10:50~11:15

カリフォルニア州における「介入指導に対する反応」(RTI)モデルの一展開—「サービス調整チーム」(COST)に基づく児童生徒支援システムを中心に—

帖佐 尚人(鹿児島国際大学)

・11:15~12:05

ニューヨーク市における教員評価制度の現状と課題

末藤 美津子(東洋学園大学)

吉野 舞起子(ティーチャーズ・カレッジ エルベンウッド・センター)

・12:05~12:15

全体討議など

発表時間 発表20分・質疑5分(計25分)

発表に必要な資料は、各自30部ご用意頂き、大会当日にご持参ください。

アメリカ教育学会第26回大会（名古屋大会）公開シンポジウム

現代アメリカ教育思潮の変遷と展望 －政治哲学・文化政治学・教育政策からみるアメリカ教育の動向－

日時： 2014年10月25日（土）14：20～17：00
会場： 名古屋大学東山キャンパス教育学部大講義室

本シンポジウムの趣意

本学会では、シンポジウムおよび自由研究発表、さらに適宜開催の研究会の場において、ブッシュ政権下の2002年に成立のNCLB法から近年のオバマ政権下のRace to the Topまでのアメリカの教育政策動向とそれらの分析について、継続的に議論してまいりました。そこでは、教育改革の目指してきたもの、方法、もたらされたものをめぐって、より具体的には、各種のアカウンタビリティ体制、スタンダードの策定とテストの展開、教職の専門性、公立学校の実践報告などの諸相に着目することにより、それらがどのような教育の方向性を示唆しているのか、議論してきました。

本大会では、引き続き、現政権下で進行中のさまざまなレベルでの制度改革の動向とその研究を下敷きにしながらも、従来とはやや異なる文脈、アメリカの教育思潮、特に政治哲学的、文化政治学的パースペクティブから、アメリカの教育の諸相と課題にアプローチすることを目的としたいと考えます。

2008年のリーマン・ブラザーズの破たんを契機とした経済危機は100年に一度の危機と位置づけられましたが、オバマ政権にとっては、この危機に対処するべく大型の財政出動が最初の仕事となりました。20世紀初めに発生した大恐慌から概観すると、(世代論的には)現代のアメリカ思潮は、新革新主義の時代に入ったという見方があります。(リベラリズムの時代－1930～1980、新保守主義の時代－1980～2008、新革新主義の時代－2008年～)。しかし、よく指摘されるように、オバマ政権下での教育政策は、この図式からは期待を裏切るものでした。教育スタンダードの希求やアカウンタビリティの強化はある意味で必然的な流れなのか、想定を超えたものなのか、アメリカはどこに向かおうとしているのか、冷静に判断するための分析の枠組みが求められているように思われます。

今回のシンポジウムでは、この分析の枠組み、視点を提供するものとして、各提案者から、政治哲学的、教育思想史的観点からのアプローチ、インナーシティや地域社会における教育者のリーダーシップ論、教育における正義と公正の観点、具体的な教育政策の実態他から提案をしていただき、ご参加のみなさまとともに、アメリカ教育を動かすもの、またあるべき姿についての活発な討論ができればと思います。

こうした議論の成果として、本学会で議論してきた各種のアメリカ教育改革政策の様相を改めて大きな歴史的潮流のなかに位置づけなおすことができればと願っております。

提案者：篠原岳司（滋賀県立大学）
生澤繁樹（上越教育大学）
鵜海未祐子（専修大学・非常勤）
伊藤博美（名古屋経済大学）

企画・司会：松下晴彦（名古屋大学）
澤田稔（上智大学）

アメリカ教育学会 第26回大会プログラム

2014年9月20日発行

発行者 アメリカ教育学会 第26回大会準備委員会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

松下研究室内

松下晴彦

Phone & Fax 052-789-2616 E-mail: n47132a@cc.nagoya-u.ac.jp